



取材依頼

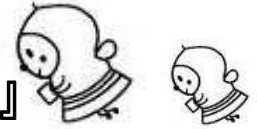
計2枚

2010年6月2日

愛知文教大学 PR事務局

愛知文教大学 地域貢献活動 ～中学での学習支援～

ネイティブ教員及び大学生による『英語の実践授業サポート』



愛知文教大学(所在地:愛知県小牧市 学長:増田孝)では、2010年2月1日に「教職課程研究センター」が開設されたことを機に、地域教育機関とのより密接な関係構築を事業の1つに掲げています。2010年6月からは、地域との連携を更に活性化するため、小中学校における学習支援活動の一環として、新たに桃陵中学校でクラス全体を対象とした英語の実践授業サポートを開始いたします。

【英語の実践授業サポート 概要】 ※取材対応可

- 実施校:小牧市立桃陵中学校(愛知県小牧市桃ヶ丘2-1)
- 活動頻度:6月・7月に各1回実施
- 実施日:6月9日(水)、7月14日(水)
- 対象クラス:2年生全5クラス(6月に2クラス、7月に3クラスを予定)
- 担当教員:英語インテンシブ科目の教員が担当
カポ・ゴ教授(香港出身)、セレナ・チャン准教授(香港出身)
ポール・タナー准教授(アメリカ出身)、ジム・チャップマン専任講師(カナダ出身)
- サポート学生:約5名(予定)
※1クラスあたり2名を予定。本学の英語の教員免許取得希望学生を中心に参加。
- 授業内容に関して:
中学校の教科書に沿った内容で展開
具体的な授業計画はネイティブの教員が組み立て
生徒が沢山英語を使える実践的授業
- 具体的な授業内容:英語を使って香港旅行へ行こう!
- 今回の活動目的
 - 中学校で生の英語に触れる機会を提供し、“実生活で使える英語”を習得
 - 年齢の近い大学生の参加により、生徒の英語・国際社会に対する親近感向上
 - 教員を目指す本学の学生に、教育実習以外にも現場感覚を磨く場を提供
 - 非常勤講師としての採用につながる契機を提供(※小牧市の学習チューター制度登録)

愛知文教大学ではこれまでも桃陵中学校において、学習内容の理解のために国語・社会・数学の個別支援を行う「学習支援活動」を行ってまいりましたが、地域との連携を目指す本学の姿勢と、英語実践の場の増加を希望する桃陵中学校のニーズの合致により、今回新たにクラス全体を対象とした英語の実践授業サポートを実施する運びとなりました。

愛知文教大学は、これからも地域に根ざした大学を目指し、地域教育機関との連携・協力活動を続けてまいります。

— 本件に関するご取材等のお問い合わせ先 —

愛知文教大学PR事務局(株式会社プラチナム内)

〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1-18F

TEL:03-5572-6073 FAX:03-5572-6075 E-mail:k-watabe@vectorinc.co.jp

担当:渡部(わたべ)・松永・與芝(よしば)

学習支援活動に関して

●地域性を活かした、グローバルな学習支援活動

愛知文教大学では、**全国で2番目に外国人登録者数の多い愛知県**の現状と、様々な国からの留学生・国際意識の高い日本人学生が多数在籍する本学の特性を反映し、小牧市との協力のもと、**外国人児童・生徒を対象としたローカルかつグローバルな学習支援**を行っています。

学生のインターンシップ活動の一環として始まった学習支援ボランティアは、地元小牧市の小中学校に通う外国人児童・生徒の習熟度向上に貢献するだけでなく、大学に通う留学生との身近な国際交流の場としても機能し、年々活動の範囲を拡大しています。



平成20年末現在 外国人登録者数の都道府県別割合
参考：法務省「在留外国人統計」

●参加学生の声 ※取材対応可

ー 船越貴久くん(愛知文教大学 国際文化学部 日本文化専攻3年)

5年ほど前から出身中学で野球部のコーチをしている経験があったため、小中学生とのコミュニケーションには自信がありました。しかし、実際に経験してみるとその自負は大きく覆され、勉強とスポーツの場ではコミュニケーション方法が大きく異なるため、声の掛け方1つでも生徒のモチベーションを左右してしまう難しさを実感しました。

また、学習支援を行う小中学校には外国人児童も多くいますが、留学生が多い愛知文教大学での経験があったからこそ、価値観に差があるという前提で臨めたと感じています。

このような経験を踏まえ、生徒に合わせた目線と第三者としての冷静な目線も両方を持った教員を目指していきたいと考えています。



学習支援活動の様子

●本学コメント:長所を伸ばす学習支援

愛知文教大学の学生は、普段から外国人留学生と身近に接していることから、**外国人とのコミュニケーション**にも慣れており、日本語能力の未熟な低学年の外国人児童に対しては、英語で試行錯誤を重ねながら指導にあたっています。また、日本語の堪能な外国人留学生も活動に参加しており、各々の学生が児童・生徒の目線に立った指導を実践しています。

学習支援を通して、児童・生徒が理解する喜びを実感するとともに、指導する学生にとっても教える楽しみを経験するという、**双方の自己肯定感につながる相乗効果を発揮**しています。

【愛知文教大学データ】

- 学部: 人文学部人文学科(外国語専攻/日本文化専攻)
- 大学院: 国際文化研究科(博士前期・後期課程)
- 学長: 増田 孝
- 設立: 1998年
- 所在地: 愛知県小牧市大草年上坂5969-3
- 学生数: 約360名(外国人留学生の数: 150)



ー 本件に関するご取材等のお問い合わせ先 ー

愛知文教大学PR事務局(株式会社プラチナム内)

〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1-18F

TEL: 03-5572-6073 FAX: 03-5572-6075 E-mail: k-watabe@vectorinc.co.jp

担当: 渡部(わたべ)・松永・與芝(よしざ)

愛知文教大学 学習支援の概要

《実施概要》 ※2010年6月開始の英語の実践授業サポートは除く

	小学校向け支援	中学校向け支援
教科	算数	国語・社会・数学
期間	各学期3日間(7、12、2月)	毎週火・金曜
支援担当者	ボランティア(全学生対象)	ボランティア(教員免許取得を志す3・4年生)
授業体制	児童2人に対して大学生1人	マンツーマン(中学生教諭数名が補助)
実施校	味岡小学校	桃陵中学校

※学習支援対象には、外国人児童だけでなく、日本人児童も含まれます。

《グローバル学習支援 ― 身近な国際交流が生み出す相乗効果》

①児童・生徒の学習意欲向上

算数を苦手とする生徒にとっては、大学生との授業、通称『算数タイム』を心待ちにしたり、楽しみながら算数タイムで学習することで、普段の学習に対する意欲向上につながっています。

②身近な国際交流・異文化理解のきっかけ

指導員として参加している留学生とのやりとりを通じた国際理解を促すとともに、母国語を同じくする大学生と児童・生徒の交流の場としても機能しています。

③教員志望学生にとっての実践経験

今年度からの試みとなる中学校での学習支援は、教員志望の学生がいち早く現場を知る機会にもなっています。大学での学びを実践できることが、普段の大学での授業にも反映され、より一層、教員への志が高まることにもつながっています。

《国際的学習支援 今後の展開》

現在は学生が小中学校へ赴き支援を行っておりますが、児童・生徒が大学内で学びを体験するという相互の交流の活性化を目指しています。また、小学校では学習支援の頻度を高め、毎週定期的に行える制度の構築を検討しています。中学校においても取り出し授業だけでなく、他の授業においてもティーチングアシスタントとしての参加を推進していきたいと考えております。

現在実施している小中学校でのノウハウの体系化・地域に根ざした国際理解の向上を目指し、将来的には他校の外国人教育に還元出来るよう取り組む方針です。



— 本件に関するご取材等のお問い合わせ先 —

愛知文教大学PR事務局(株式会社プラチナム内)

〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1-18F

TEL: 03-5572-6073 FAX: 03-5572-6075 E-mail: k-watabe@vectorinc.co.jp

担当: 渡部(わたべ)・松永・與芝(よしば)